

ことばの教室

1. 研究主題 ことばの教室における表現力・コミュニケーション力を高める支援のあり方

2. 育てたい力

◆表現力

- 自分の思いや考えを、進んで表現しようとする力
- 自分の思いや考えを、相手に伝わるように表現する力

◆コミュニケーション力

- 自分の思いや考えを、進んで相手に伝えようとする力
- 相手の思いや考えを、正しく受け止める力
- 周りの人とのやり取りが、スムーズにできる力

3. 研究の視点と手だて

〔視点1〕児童が主体的に取り組めるような活動の工夫

- 児童の実態に応じて自分の課題（めあて）を把握させ、その課題解決に向けてどんな活動が必要か考えさせる。
- 児童が考えた活動も含めたいろいろな活動を提示し、その中から課題解決のために自分が取り組みたい活動を選択させる。

〔視点2〕話す・聞く・読む活動、リラクゼーションの工夫

- 安心して話のやり取りができるよう、リラックスできる雰囲気作りをする。
- 話すこと・聞くこと・読むことが楽しいと感じる活動を体験させ、意欲付けにつなげる。

〔視点3〕個々の課題に応じた学習の工夫

- 正しく話したり聞いたり読んだりするために、個々の児童が必要とする言語学習を行う。
- 児童の実態に応じて、計画的に学習を進めていく。

〔視点4〕日常的な活動の工夫

- 保護者や担任と連携しながら、よりよいコミュニケーションができる環境を整備する。

〔視点5〕評価の工夫

- 各個人の通級状況に応じ、ある程度の指導回数や一定期間をとらえて評価する。また、そのために、毎時間より丁寧で詳細な記録の蓄積をしていく。

ことばの教室 成果と課題

ことばの教室では、今年度も日々の授業を通して表現力・コミュニケーション力を高める指導方法のあり方について探ってきた。その結果、下記のような成果と課題が明らかになった。

◎ 成 果

〔視点1〕 児童が主体的に取り組めるような活動の工夫

- 下学年の児童には、遊びを取り入れた様々な学習内容を提示し、一定期間取り組んだことにより、自分でも学習課題を選択できるようになった。
- 上学年の児童には、この学習は何のための学習かを振り返らせ、徐々に自分の課題を分らせるようにしたことで意欲が高まり、自主的に学習に取り組めるようになった。

〔視点2〕 話す・聞く・読む活動、リラクゼーションの工夫

- 必要に応じた少人数活動を取り入れ、子ども同士のやり取りの中で、話す・聞く活動を工夫することができた。
- 個人個人に応じた教室経営をすることで、リラクゼーションを図ることができた。

〔視点3〕 個々の課題に応じた学習の工夫

- 学校生活の中での様々な活動の中からも課題を見つけ出し、話し合いながら学習活動を進めることができた。

〔視点4〕 日常的な活動の工夫

- 保護者や担任と、子どもの様子についての情報交換を丁寧にする事で、よりよい学習環境作りが図れた。

〔視点5〕 評価の工夫

- 毎時間かかさず記録をとることができ、一人一人の評価に役立てることができた。

◎ 課 題

- ▲ 指導をしながらの記録が多いため、より丁寧に詳細な記録の蓄積をさらに工夫していきたい。
(ビデオや録音テープの活用など)
- ▲ 一対一という特別な環境でのやり取りを般化していく指導のあり方について、さらに探していきたい。

今後、これらの課題を解決していくことで、児童の表現力やコミュニケーション力をいっそう高めることができると思う。